

大人のレッスンシリーズ

# クラシックギター を弾こう!



# Contents

## 1章 クラシック・ギターを知ろう

1 クラシック・ギターの構造とパーツ	4
2 便利な小物	6
3 クラシック・ギターの弦	8
4 弦交換の方法	9
5 チューニング	12
6 爪の手入れ	14
7 メンテナンス	15

## 2章 基礎編

1 構え方	16
2 右手の構え方	17
3 左手の構え方	18
4 指番号	19
5 楽譜の読み方	20
6 弦のはじき方	22
7 開放弦を使ったトレーニング	24

## 3章 実践編

1 ドレミを弾こう	26
2 スラー	28
3 スライド	30
4 ビブラート	31
5 練習曲を弾く	32



<b>4章 アルペジオ編</b>	
<b>1</b> アルペジオとは	36
<b>2</b> アルペジオの右手の構え方	37
<b>5章 クラシック・ギター・スタイル編</b>	
<b>1</b> クラシック・ギターのスタイル	42
<b>2</b> ちょうちょ (ソロ・スタイル)	44
<b>3</b> ふるさと (ソロ・スタイル)	45
<b>4</b> さくらさくら (ソロ・スタイル)	46
<b>5</b> ちょうちょ (合奏スタイル)	48
<b>6</b> セーハの攻略	50
<b>7</b> ふるさと (合奏スタイル)	52
<b>8</b> さくらさくら (合奏スタイル)	54
<b>6章 クラシック・ギター・スコア</b>	
<b>1</b> 上を向いて歩こう	59
<b>2</b> きよしこの夜	62
<b>3</b> 大きな古時計	64
<b>4</b> 悲しい酒	66
<b>5</b> 禁じられた遊び	72
楽典	76

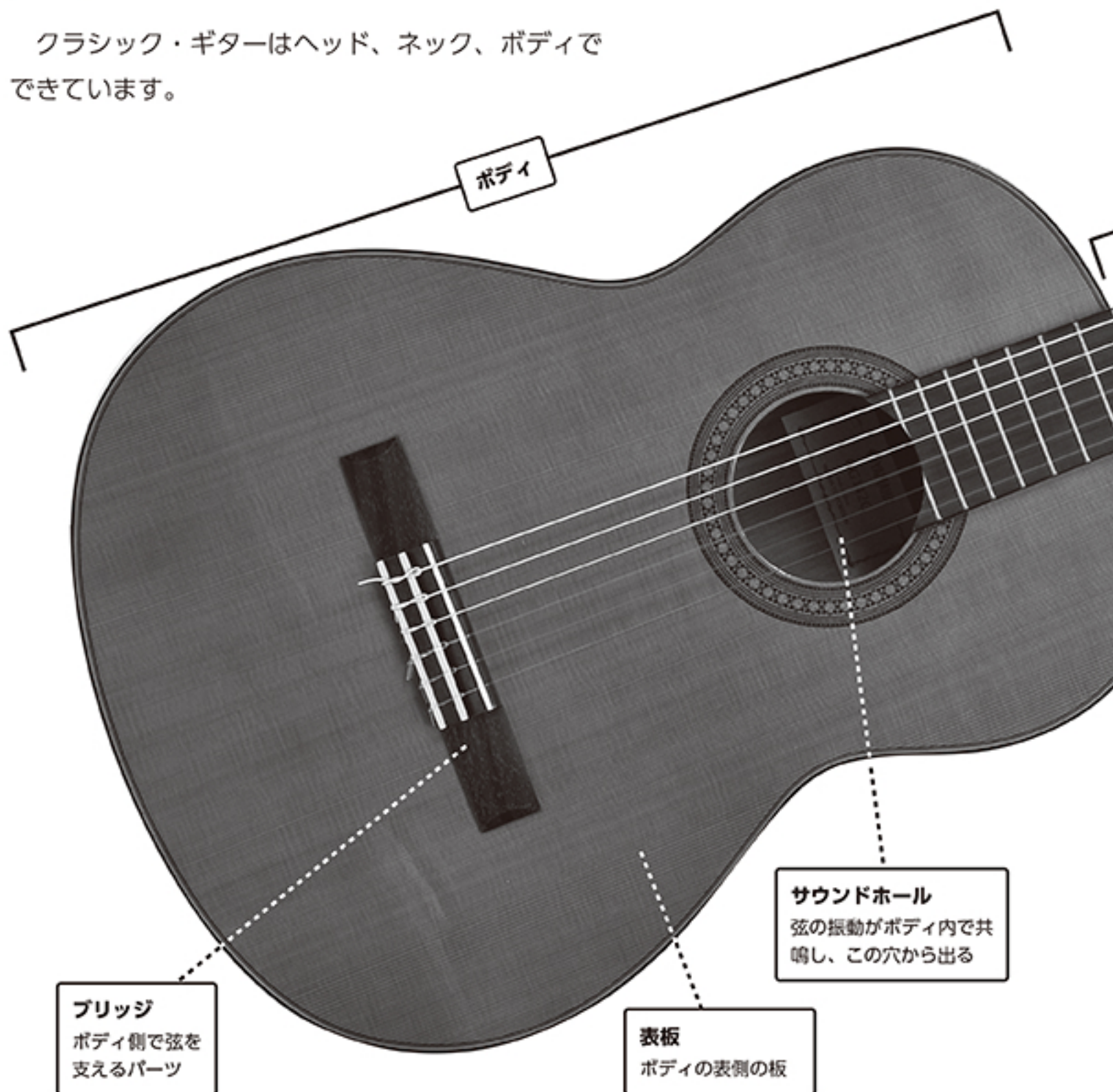
# 1 章

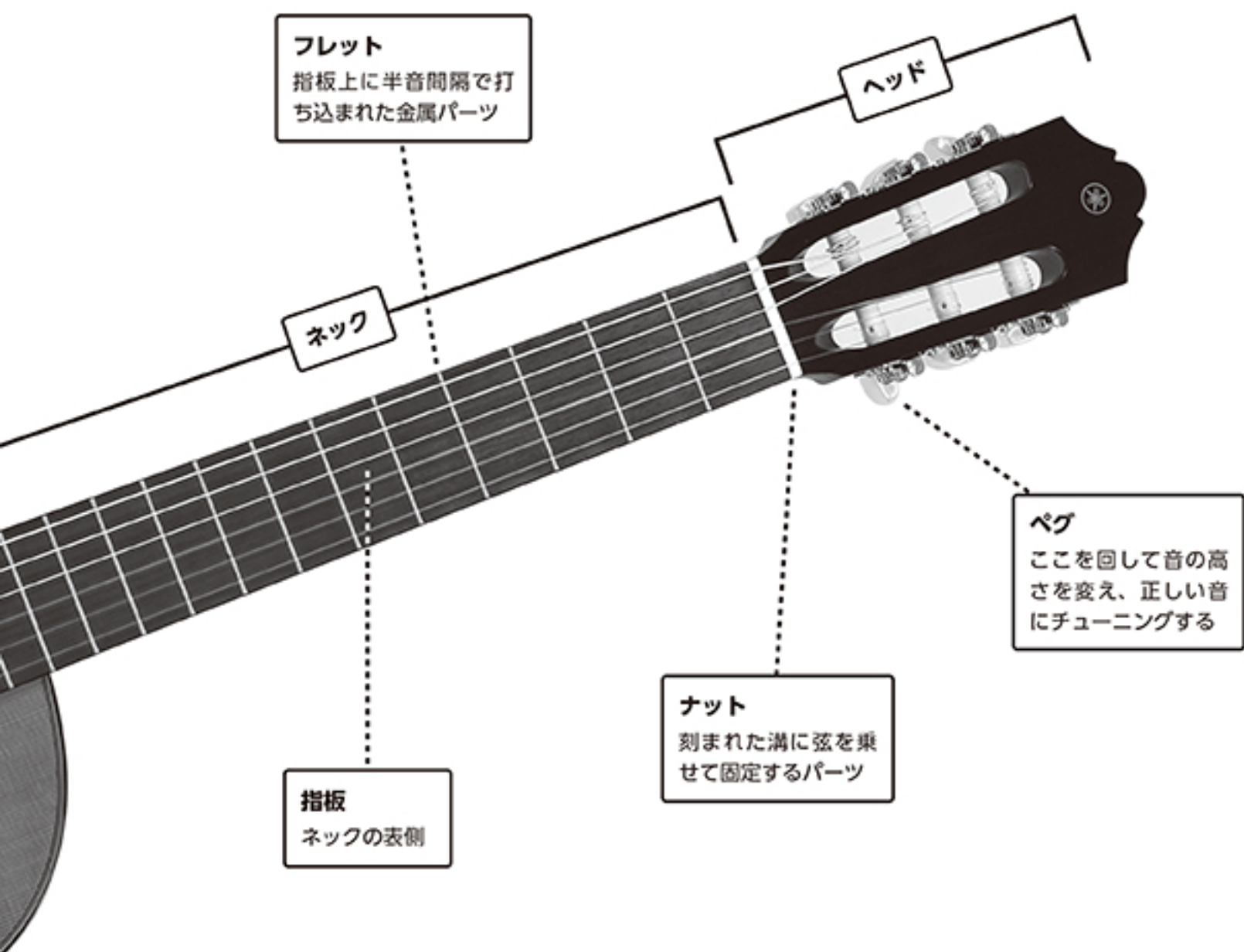
## クラシック・ギターを知ろう

クラシック・ギターを弾く前に、その構造や揃えておきたい小物、そしてチューニング方法などを確認しましょう。

### 1 クラシック・ギターの構造とパーツ

クラシック・ギターはヘッド、ネック、ボディでできています。





## POINT クラシック・ギターとアコースティック・ギターの違い

両方とも似ていますが、弦の材質や指板の幅、全体的なサイズなどが異なり、出る音も全く違います。初めて購入する際は、弾いてみたい音楽が弾き語りやポップスなどであればアコースティック・ギター、弾いてみたい音楽がクラシックの音楽であればクラシック・ギターを選ぶのがよいでしょう。

## 2 便利な小物

クラシック・ギターを弾く上で一緒に用意しておきたい小物を紹介します。

### チューナー



▲正確なチューニングに欠かせません。

### 足台



▲左足を乗せてギターを構えます。

### メトロノーム



▲正確なリズムを鳴らす道具です。練習で使うと正確なリズム感を身に付けることができます。

### 譜面台



▲楽譜を置くための台です。

## ギター・スタンド



▲ギターを立てかけるための道具です。

## ギター・ケース



▲ギターを収納するケースです。頑丈なハード・ケースと軽い素材のソフト・ケースがあります。

## 弦



▲弦が切れたときのために、1セットは予備として常備しておきましょう。

## カポタスト



▲指板に装着して、ギターの音程を全体に高くします。歌の伴奏などによく用います。

## クロス



▲汚れをふき取るための楽器用の布です。

## ニッパー



▲弦交換の際にあると便利です。

## 3 クラシック・ギターの弦

クラシック・ギターにはナイロン製の専用の弦を張ります。エレキ・ギターやアコースティック・ギターの弦とは違うので、注意が必要です。

### 様々な種類の弦がある

1～6弦のセット弦と各弦のバラ売りがあります。たくさんのメーカーや種類があるので、迷ったら楽器店の店員に相談してみましょう。



### 太さ、張りによる違い

弦の太さや張りによって音の力強さ、弾きやすさが変わります。最初のうちは指が痛くならないようにソフト・テンション、ロー・テンションを選びましょう。

名称	音色	特徴
ハイ・テンション、ハード・テンション	明るく張りがある	演奏会などで使われる
ノーマル・テンション	普通	標準品
ソフト・テンション、ロー・テンション	柔らかい	手にやさしく、初心者向け

※名称はメーカーによって異なります。



## 4 弦交換の方法

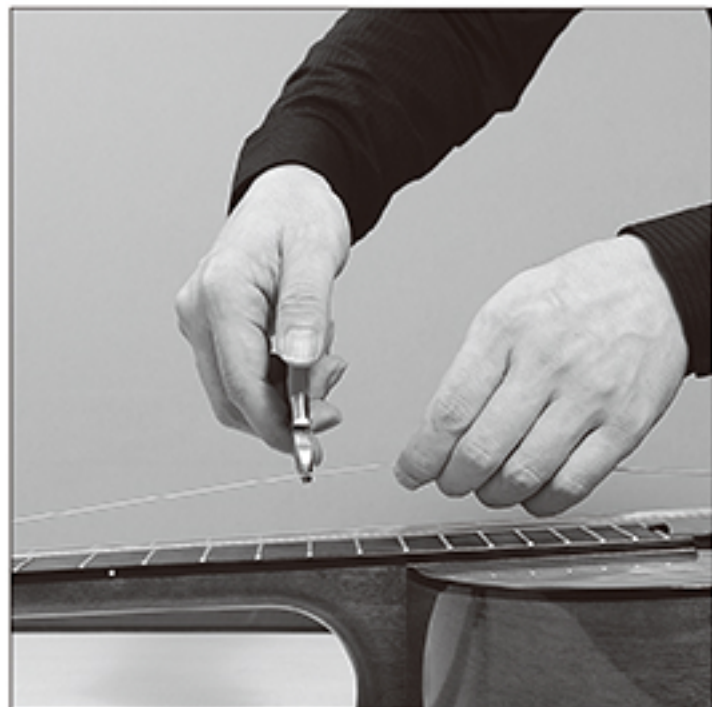
クラシック・ギターの弦は1ヶ月～半年を目安に定期的に張り替える必要があります。弦の交換について見ていきましょう。

### ●手順1



▲交換する弦のペグを弦が緩む方向へ回します。弦を緩めるのは1本ずつです。

### ●手順2



▲緩めた弦をニッパーで切って外します。

### ●手順3



▲ブリッジの穴に弦を通します。

### ●手順4



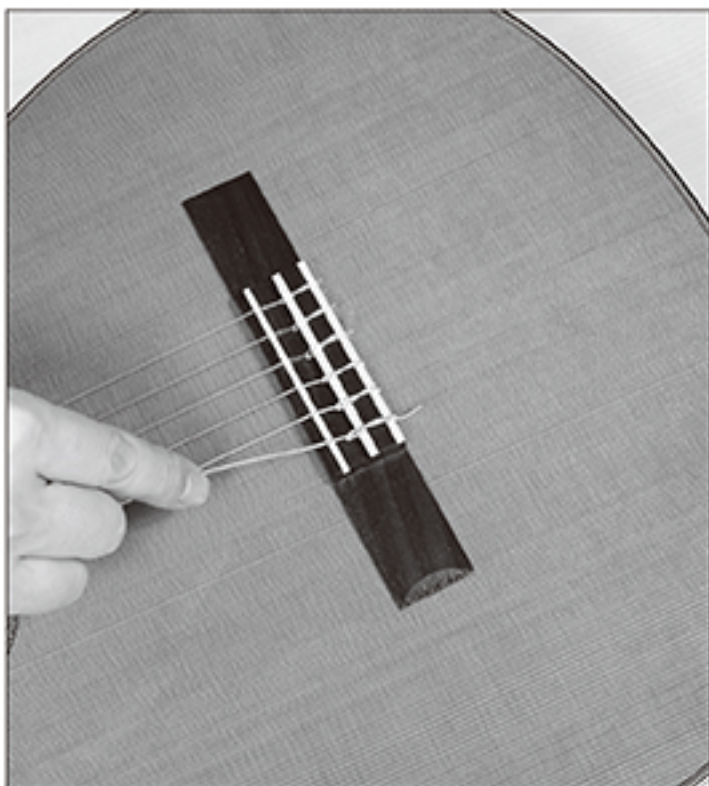
▲先端を折り返して弦の下に通します。

●手順5



▲ブリッジ上の輪に弦を通します。

●手順6



▲先端が少しはみ出した状態で弦を引っ張って結び目を締めます。

●手順7



▲もう一方の先端をペグの穴に通します。

●手順8



▲ヘッドの裏側に出た先端をペグの下側から戻し、弦に何度か巻き付けます。

## ●手順9



▲ペグを巻き、適度に弦が引っ張られた状態になったらナットの溝に乗せます。

## ●手順10



▲余分な弦をニッパーで切ります。

以上で弦交換が完了です。慣れないうちは時間がかかったり、うまくできないこともあります。クラシック・ギターは弦を交換する頻度が比較的多いです。また、弦の巻き方でチューニングの安定度なども異なりますので、しっかり慣れていって“モノ”にしましょう。

### POINT 弦交換の時期

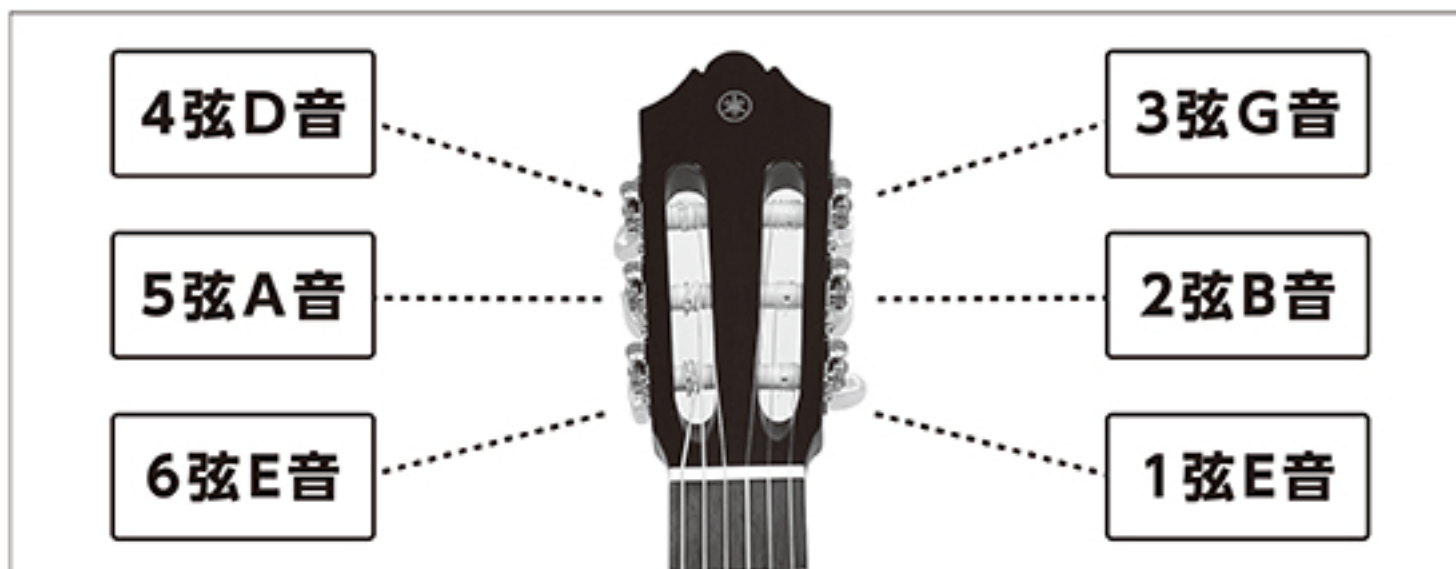
音の張りがなくなってきたら弦交換の時期です。ギターを弾く頻度によって違いますが、1ヶ月～半年を目安に弦を張り替えましょう。弦が切れて1本だけを交換する場合を除き、基本的には全ての弦を同時に交換することが好ましいです。



## 5 チューニング

ギターはチューニングが狂いやすい楽器です。各弦を正しい音程に合わせないと美しい響きにならないので、弦交換をしたときだけでなく、日々ギターを弾く前にチューニングするようにしましょう。

### 各弦の音程



### チューニングの手順

#### ●手順1



▲クリップ式チューナーをヘッドに装着します。

#### ●手順2



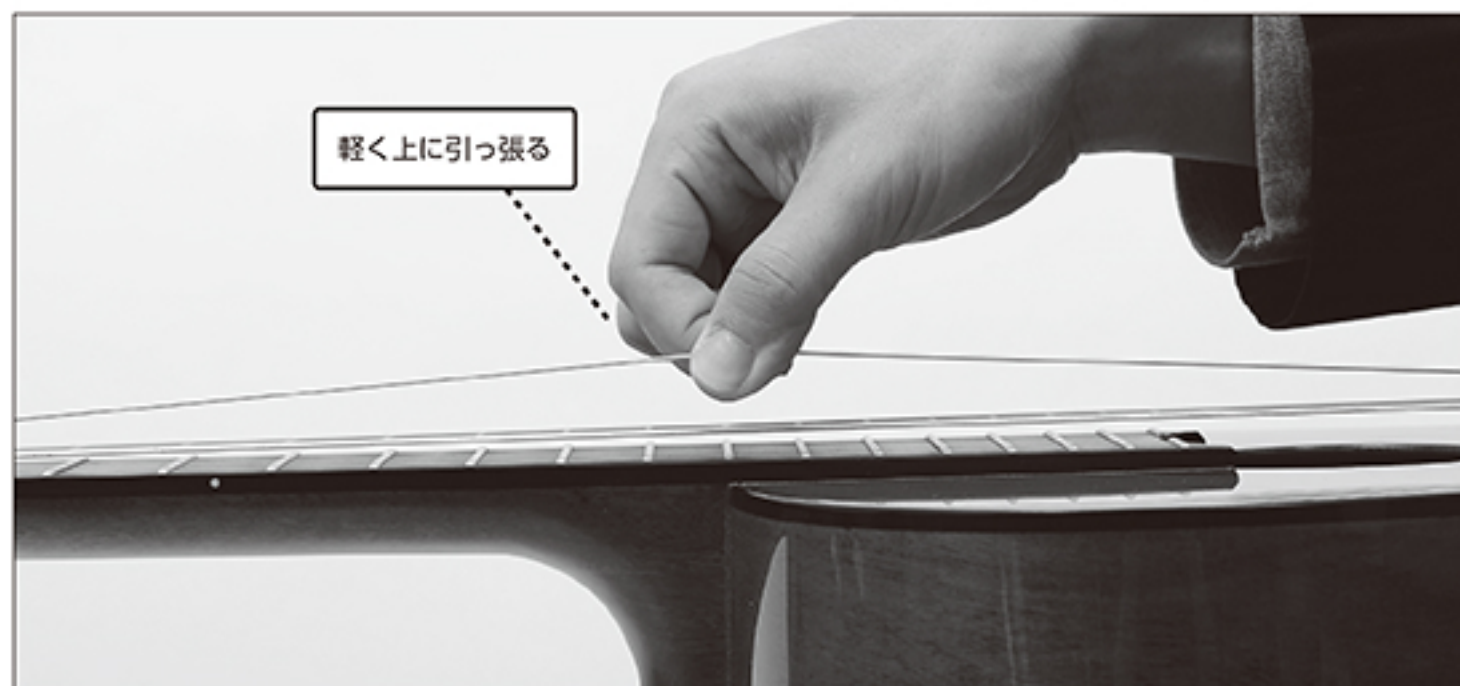
▲6弦の開放弦(左手でどこも押さえない)を鳴らしチューナーの表示がE音になるようペグを調節します。

以上で完了です。5～1弦を同じ方法でチューニングしていきます。

## チューニングの注意点

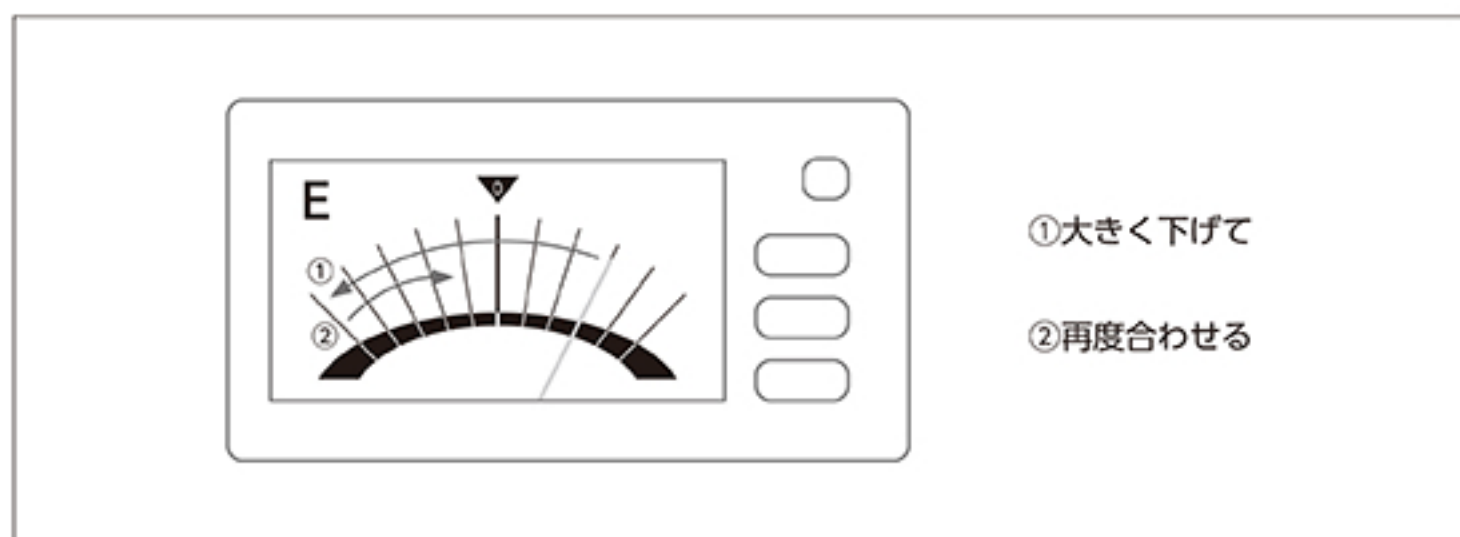
### ●弦は伸びる

新品の弦を張ってしばらくは弦が伸びてチューニングが狂ってしまいます。弦を伸ばしきってチューニングを安定させるために弦を軽く引っ張りましょう。



### ●チューニング中、針が上がりすぎたときは、いったん大きく下げる

針が上がりすぎた場合に、そこからちょうどの音に合わると、チューニングした音がすぐ下がってしまい安定しません。いったん大きく下げて再度また調整しましょう。



### ●もう一度それぞれの弦のチューニングを確認する

1～6弦までチューニングした後は、もう一度6弦からチューナーで確認しましょう。特に新品の弦は安定するまで何度もチューニングを行います。

## 6 爪の手入れ

クラシック・ギターは右手の爪の手入れが欠かせません。日々手入れしてよい状態を保ちましょう。

### 紙ヤスリで整える

爪ヤスリか紙ヤスリで丸く形を整えた後、1000番から1500番の紙ヤスリで爪の断面がなめらかになるように磨きます。



### 爪の長さ

手のひらから見て爪が2～3mmはみ出す程度に揃えます。爪切りは使わず、ヤスリだけでこの状態を維持するようにしましょう。

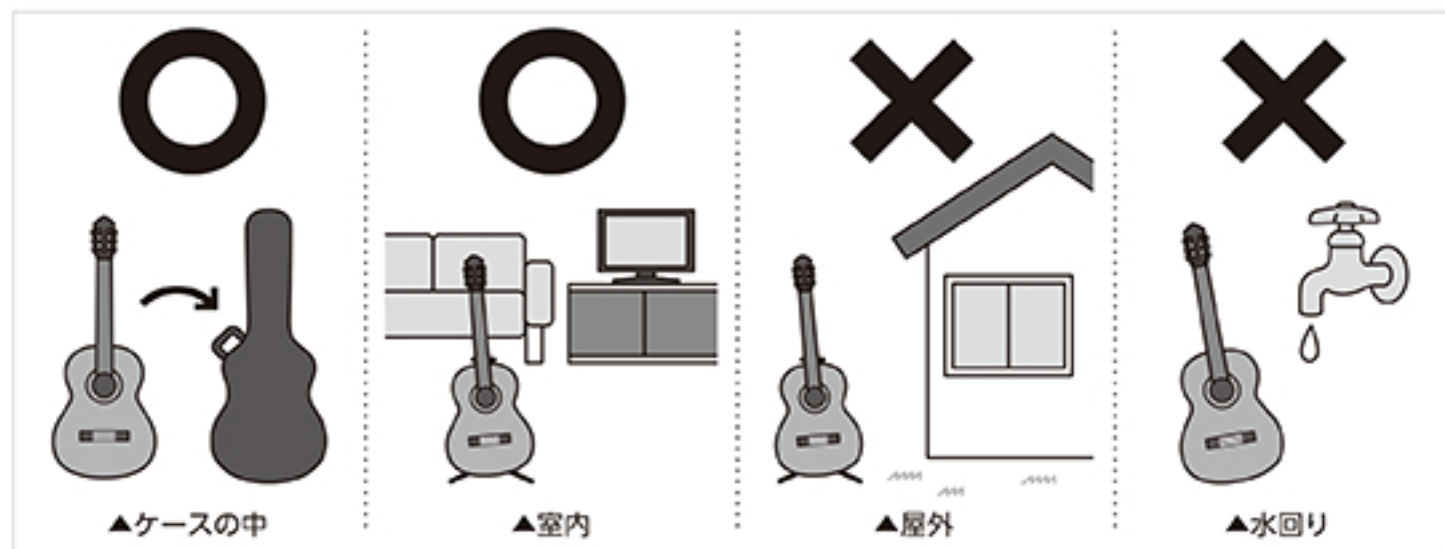


## 7 メンテナンス

クラシック・ギターを弾いた後に行うメンテナンスです。大切な楽器を長持ちさせるためにもぜひ実践しましょう。

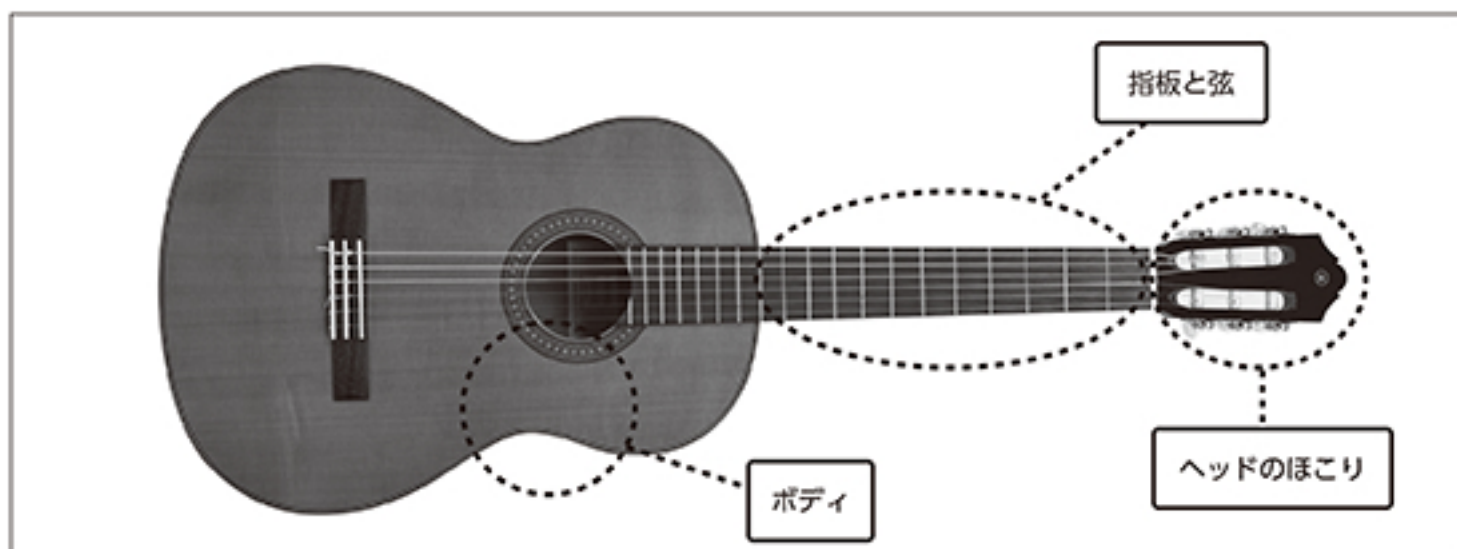
### 保管場所

温度、湿度が急激に変化する場所は保管に適しません。



### 汚れ、汗

ボディ、ネックの汚れや汗はクロスで拭き取りましょう。弦に付いた汗も軽く拭き取ると弦が長持ちします。



### 弦は緩めない

一度張った弦を緩める必要はありません。これはネックの状態を安定させるためにも重要なことです。